

国際貢献サミット 東京宣言採択し閉幕



日本と世界のNGO網形成

岡山に事務局設置

難民支援活動などを行っている世界三十三カ国のNGO（非政府組織）が参加した「弘おかやま国際貢献NGOサミット」（アジア医師連絡協議会・AMDAなど主催）は最終日の二十六日、東京都内で総括会議を開き、「日本と世界のNGOが、ネットワークを形成し、国連機関や各国政府とも連携を取りながら協力していく」という東京宣言を採択、一週間にわたる会議の幕を閉じた。

市民運動の 盛り上げ図る

この日決まったネットワークの名称は「緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク」(INNED)で、事務局を岡山市のAMDA事務局内に置き、事務局長にはAMDAの菅波茂代表が就任した。

岡山に国際NGOネットワークの事務局設置を決めた「弘おかやま国際貢献NGOサミット」の総括会議

加茂川町などの地方自治体、宗教者グループが中核になって、近く「国際貢献人道援助機関連絡協議会」(AHOIC)を結成、INNEDと連携して、市民運動を盛り上げていく方針話していた。

東京宣言に基づきINNEDでは今後、①年一回以上二ニュースレターを発行する②各国の災害事情、資金確保状況などの情報交換の場を提供する③組織間の協力によるプロジェクトを推進する④国連機関、今回のサミット参加国の政府にも報告書を送付し連携、協力を呼び掛ける⑤などの活動をスタートさせる。

さらにAMDAや岡山県

針

すそ野の広がり期待

二十日、岡山市で開かれたNGOサミットは全日程を終了した。サミットを後援したWHO（世界保健機関）の安川隆子・緊急人道援助部医療指導者「スイス在住」は、「各国の地域レベルで活動するNGOがこれほど集まって討議したことは珍しく、NGOとの関係を強めつつあるWHOとしても意義深い。内容が薄い感のある日本の国際貢献のすそ野を広げる意味で高く評価できると話す。

しかし、サミットに参加した日本のNGOは、岡山市下の団体が中心。「今テーマの緊急救援に関するNGOは東京に本拠のあるところが多々、岡山までの距離の遠さを感じた」（菅波代表）など、国内NGOとの関係強化が今後の課題として残った。